

●現代への疑問と不満を抱き、矛盾の解決をめざす人びとへ——ここHOWSで、真実の思考を追究しよう！

2013年度後期 開講講座

11月2日(土) 午後1時～

アジアへの加害者の自覚を欠いた戦後日本の出発

—— 天皇制、サンフランシスコ講和条約を中心に

『解放の日まで——在日朝鮮人の足跡』PART①上映

講師＝高嶋伸欣（琉球大学名誉教授）

11月9日(土) ロシア十月社会主義革命96周年記念映画と講演の集い 20世紀社会主義の成果と教訓を引き継ぐギリシャ人民の闘いとわれわれ映画『Z』（監督：コスタ・ガラス 1969年、アルジェリア/フランス 127分）**上映報告**＝山下勇男（社会主義理論研究）

◆主催者あいさつ、ほか

1、安倍・壊憲政権との対決

安倍政権は特定秘密保護法、国家安全保障基本法など人民統治の治安維持体制の法制化を狙いつつ、解釈改憲によって集団的自衛権の行使を許す体制づくりを目指し、あわよくば実質改憲を実現しようとしている。

このような危機的状況のなか、安倍政権の本質を見抜き青年・学生・労働者が団結し、健康で文化的な生活を保障する社会を実現させる、統一した壊憲阻止の運動を作っていくことは緊急の課題となっている。護憲運動で活動している皆さんの、本講座への継続した参加を呼びかけます。

①**11月20日(水) 軍事的対決路線を突き進む安倍政権**

—— 集団的自衛権行使容認の意味

講師＝高橋俊次（壊憲NO！ 96条改憲反対連絡会議事務局）

②**1月11日(土) アベノ改憲でどう私たちを支配しようとしているのか**

—— 壊憲国家改造阻止、憲法の生きる日本にするための課題を考える

講師＝坂本 修（弁護士）

③**1月22日(水) 改憲とTPPを必要とする日本独占資本**

—— 帝国主義は軍事力を不可欠とする

講師＝新田 進（国際労働運動研究）

④**3月5日(水) 目にあまる天皇の政治利用**

—— 憲法9条を1条に！

講師＝山口正紀（ジャーナリスト、人権と報道・連絡会世話人）

2、階級的労働運動の再生をめざして

安倍政権は、「憲法96条改憲、集団的自衛権行使、特定秘密保護法案」等々歴史の歯車を逆転させる日本国憲法破壊に突き進んでいる。その一方で「経済再生」に名をかりて経営者・資本家の収益・内部留保優先の賃金政策、消費税増税、物価値上げ、社会保障・社会福祉削減を強行している。臨時国会では「国家戦略特区」と称した労働規制緩和を強行し、労働者・人民をさらに貧困へ追いやるとうとしている。この反動状況をひっくり返すには、24年間闘い抜いた「国鉄闘争の成果と教訓」を活かし、職場・生産点に依拠した大衆運動の展開が必要だ。それが社保庁・JAL解雇争議を勝利に導き、同時に労働運動再生の契機となる。

①**11月23日(土・休) JR北海道の事態はどうして起きたのか**

—— 分割・民営化後のJRの実態

講師＝唐澤武臣（国労高崎地本書記長）

②**12月18日(水) 正念場を迎えるJAL争議**

講師＝鈴木圭子（JAL客乗原告団・事務局次長）

③**1月25日(土) 社保庁解雇撤回闘争の部分的勝利と今後の闘い**

講師＝國枝孝幸（全厚生闘争団事務局次長）

④**2月15日(土) 韓国労働運動の進路をめぐる論争**

—— 韓国・日本・ギリシャをつなぐ道

講師＝韓国から全国労働者政治協会のメンバーを招聘

⑤**2月19日(水) 非正規雇用違憲訴訟の可能性を探る**

講師＝二瓶久勝（国鉄闘争を継承する会代表）

新田 進（国際労働運動研究）

3、日朝・日韓の歴史と連帯運動の課題を探る

安倍晋三の首相再登場、橋下・石原らの日本維新の会、在日特権を許さない市民の会の跳梁など、日本社会の右傾化が急進している。その根底には、日本の労働者階級・人民の、植民地支配とアジア・太平洋戦争に対する責任の無自覚、とりわけ天皇の戦争責任追及の不徹底がある。今期のHOWSでは、日朝・日韓の連帯をめざして5回のシリーズを組む。

①**11月2日(土) アジアへの加害者の自覚を欠いた戦後日本の出発**

—— 天皇制、サンフランシスコ講和条約を中心に

『解放の日まで——在日朝鮮人の足跡』Part①上映

講師＝高嶋伸欣（琉球大学名誉教授）

②**12月14日(土) 朝鮮大学校「歴史博物館」と**

フィールドワーク「在日朝鮮人関係資料室」を訪ねて

—— 講演「民族教育の歴史と学校を取り巻くこんにちの状況」

講師＝金 哲 秀（朝鮮大学校「在日朝鮮人関係資料室」室長）

※ 講座終了後、交流会を計画（30人定員、事前申し込み制）

③**1月18日(土) 近代日本文学と朝鮮**

—— 安重根と石川啄木

講師＝下 宰 洙（元朝鮮大学校教授）

④**2月5日(水) 朴槿恵政権1年と韓国労働運動の危機論争**

—— 『解放後の韓国労働運動 われらの歴史』^{（1999年 35分 韓国労働労働者の歴史 著者ニュース制作団）} を上映

講師＝土松克典（韓国労働運動研究）

⑤**2月26日(水) 1950・6・25「北朝鮮による突然の南侵」説の虚構を暴く**

—— 「検証 朝鮮戦争 日本はこの戦争にどうかかわったのか」を手掛かりに

講師＝鎌倉孝夫（埼玉大学名誉教授）

4、激動する世界と階級闘争のいま

今期は、欧州と中南米の典型的な闘いに焦点をあわせる。社会主義革命と反帝闘争の最前線に立つ諸国人民の闘いに光をあて、マスコミによって曇らされた真実を明らかにし、進むべき道をより確かなものとするために。

①**11月9日(土) ロシア十月社会主義革命96周年記念映画と講演の集い 20世紀社会主義の成果と教訓を引き継ぐギリシャ人民の闘いとわれわれ**

講師＝山下勇男（社会主義理論研究）

②**11月27日(水) 『労働者 前へ！PAME全ギリシャ職闘』上映と討論**

—— 反動化する社会状況の中、あらためて労働運動の任務を考える

自主ゼミ（全3回）（詳細別途）

ギリシャ共産党第19回党大会の諸文書を読む

講師＝山下勇男／沖江和博（社会主義理論研究）

③**1月29日(水) 中南米社会主義の「いま」**

—— ベネズエラの苦闘、キューバの改革

講師＝富山栄子（国際交流平和フォーラム）

5、働く女性の権利の確立をめざして

安倍政権は、「女性が輝く社会」をキャッチフレーズに、女性を日本再興＝成長戦略の中核に位置付けている。しかし、「輝く」未来を手にするのはごくわずかの女性にすぎず、多くの女性は、無権利・低賃金で酷使される。それは、拡がる格差社会を下支えし、社会保障を肩代わりさせられることにつながる。私たちは、何よりも自覚した運動を拡げる女性に変わっていかなければ、安倍の思い描く戦争のできる社会を許すことになる。

講座では、安倍政権の狙いを明らかにし、それを打ち破る闘いを進めていくための方途を探ります。

①**12月11日(水) 侵される在日朝鮮人女性の生活と人権**

—— 右傾化する日本社会の中で

講師＝金 静 貞（在日朝鮮人権協会）

②**2月22日(土) 日本軍はシンガポールでなにをしたのか**

—— 『チョプスイ』（めこん社刊）を観て、読んで、討論する

講師＝中原道子（〈VAWW-RAC〉共同代表）

③**3月8日(土) 国際婦人デー集会**

「女性労働者の分断と格差拡大に抗して」

6、原発をどうするか

—— 終焉の途を探る

福島原発事故の収束と原因究明を置き去りにしたまま安倍政権は原発再稼働と海外輸出に突き進んでいる。放射能汚染水は垂れ流し放題、収束作業員と地域住民は高線量放射線に日々さらされている。どん詰まり状態の原発＝核開発をどうしたら止められるか。現地を見て報道し、発言してきた方々の報告を聞いて、ともに考え行動していきたい。

①**11月30日(土) 原発での作業員の労働問題は今どうなっているか**

—— 記者の目から見た福島第一原発収束作業の状況

講師＝片山夏子（『東京新聞』記者）

②**2月8日(土) 放射能汚染を追って**

—— 福島原発事故から3年 現状と課題

講師＝今中哲二（京都大学原子炉実験所助教）

③**3月22日(土) 「崖っぷちの安全論」で原発輸出・再稼働**

—— 事故後も「安全より利益」が買かれるしくみ

講師＝田中三彦（^{科学ジャーナリスト、元東京電力福島原子力発電所事故調査委員会〈国会事故調〉委員}）

7、日本の短編小説を読む

講師＝立野正裕（明治大学教授） ※各回とも、午後7時開始

今期は、戦争を原体験として刻み込まれた1930年代生まれの4人の女性作家を取り上げる。「疎開者の寄る辺のない不安な存在感覚」を描き出した吉田知子、「狂気じみた内部世界」を見つめ続けた森万紀子、「〈悪〉でしかない人間」を追求して独自の表現に達した吉行理恵、「他者との関わりの中で人が常に直面させられる問題」を取り上げる加藤幸子である。

「吉田知子、森万紀子、吉行理恵、加藤幸子」（女性作家シリーズ16 角川書店刊）

①**11月12日(火) 吉田知子『無明長夜』**

②**12月3日(火) 森万紀子『単独者』**

③**1月14日(火) 吉行理恵『小さな貴婦人』**

④**3月11日(火) 加藤幸子『夢の壁』**

◎HOWS付属ゼミナール

HOWS本科生と聴講生は、有志参加による下記ゼミナールに参加できます。参加費は各ゼミ毎に別途お支払いください。

①戦後文学ゼミ

チューター＝山口直孝、松岡慶一

2000年より武井昭夫、湯地朝雄をチューターとしてはじまった戦後文学ゼミは、戦後文学を運動論の視点から捉えて検討し、文学運動の今日における再生を探ろうとする研究会です。これまで、宮本百合子、中野重治、佐多稲子、花田清輝、大西巨人、武井昭夫の仕事を取り上げたほか、戦後の文学運動の歩みを確認してきました。

②群読ゼミ

世話役＝小松厚子

台本づくりから朗読まで、参加者全員による共同制作を行ないます。この作業を通じて参加者がそれぞれに歴史について、また時代状況について学習をすすめる運動です。

◎これまでの制作・作品には、次のものがあります。

- いま、私たちの労働現場から——グローバル化と闘う世界の女性労働者との連帯
- 私たちの戦争案内——急速に進行する戦争体制づくりに抗して
- 戦争を止めよう！——あなたも・日常から・世界の女性と共に
- 戦争を止めよう！Ⅱ
- いま、私たちの労働現場からⅡ
- 私たちはどういう社会をつくりたいのか——憲法改憲は誰のため？
- 憲法改憲反対！ 忘れるな 戦争責任と不戦の誓い
- 共闘こそ力！——壊憲を許すな
- 先に起つのは君だ——戦争・失業・貧困をなくそう
- 憲法と原発——目を覚ませ！ 未来の世代のために
- 不安だらけの未来はいらない
- 利益優先の社会はいらない——闘おう！ 未来のために
- さし迫る壊憲の危機——知らなかったではすまされません

8、HOWS文化講座

①**12月7日(土) マッカーシズムとメディア**

—— 映画『グッドナイト&グッドラック』^{（2005年、アメリカ 監督：ジョージ・クルーニー）}を素材に解説＝立野正裕（明治大学教授）

②**3月1日(土) 核に向き合う文学**

—— 原爆から原発へ

講師＝石川逸子（詩人）

9、この人に聞く

①**11月16日(土)（仮題）米軍・自衛隊は沖縄でいま**

—— 強化される軍事基地の現状

講師＝米倉外昭（新聞労連副委員長／『琉球新報』記者）

②**3月15日(土) 『ローザ・ルクセンブルク雑感』**

講師＝湯地朝雄（文芸評論家）

③**3月29日(土) パレスチナ・そこにある日常**

—— パレスチナの写真も展示

講師＝高橋美香（フォト・ジャーナリスト／『パレスチナ・そこにある日常』著者）

<p>11月2日(土) アジアへの加害者の自覚を欠いた戦後日本の出発——天皇制、サンフランシスコ講和条約を中心に「解放の日まで——在日朝鮮人の足跡」Part①上映</p> <p>講師＝高嶋伸欣（琉球大学名誉教授）</p> <p>11月9日(土) ロシア十月社会主義革命96周年記念映画と講演の集い 20世紀社会主義の成果と教訓を引き継ぐギリシャ人民の闘いとわれわれ</p> <p>講師＝山下勇男（社会主義理論研究）</p> <p>11月12日(火) 日本の短編小説を読む 吉田知子作『無明長夜』</p> <p>講師＝立野正裕（明治大学教授）</p> <p>11月16日(土)（仮題）米軍・自衛隊は沖縄でいま——強化される軍事基地の現状</p> <p>講師＝米倉外昭（新聞労連副委員長／『琉球新報』記者）</p> <p>11月20日(水) 軍事的対決路線を突き進む安倍政権——集団的自衛権行使容認の意味</p> <p>講師＝高橋俊次（壊憲NO！ 96条改憲反対連絡会議事務局）</p> <p>11月23日(土・休) JR北海道の事態はどうして起きたのか——分割・民営化後のJRの実態</p> <p>講師＝唐澤武臣（国労高崎地本書記長）</p> <p>11月27日(水) 『労働者 前へ！PAME全ギリシャ職闘』上映と討論——反動化する社会状況の中、あらためて労働運動の任務を考える</p> <p>11月30日(土) 原発での作業員の労働問題は今どうなっているか——記者の目から見た福島第一原発収束作業の状況</p> <p>講師＝片山夏子（『東京新聞』記者）</p> <p>12月3日(火) 日本の短編小説を読む 森万紀子作『単独者』</p> <p>講師＝立野正裕（明治大学教授）</p> <p>12月7日(土) マッカーシズムとメディア—映画『グッドナイト&グッドラック』^{（2005年、アメリカ 監督：ジョージ・クルーニー）}を素材に解説＝立野正裕（明治大学教授）</p> <p>12月11日(水) 侵される在日朝鮮人女性の生活と人権——右傾化する日本社会の中で</p> <p>講師＝金 静 貞（在日朝鮮人権協会）</p> <p>12月14日(土) 朝鮮大学校「歴史博物館」と「在日朝鮮人関係資料室」を訪ねて——講演「民族教育の歴史と学校を取り巻くこんにちの状況」</p> <p>講師＝金 哲 秀（朝鮮大学校「在日朝鮮人関係資料室」室長）</p> <p>12月18日(水) 正念場を迎えるJAL争議</p> <p>講師＝鈴木圭子（JAL客乗原告団・事務局次長）</p> <p>1月11日(土) アベノ改憲でどう私たちを支配しようとしているのか——壊憲国家改造阻止、憲法の生きる日本にするための課題を考える</p> <p>講師＝坂本 修（弁護士）</p> <p>1月14日(火) 日本の短編小説を読む 吉行理恵作『小さな貴婦人』</p> <p>講師＝立野正裕（明治大学教授）</p> <p>1月18日(土) 近代日本文学と朝鮮——安重根と石川啄木</p> <p>講師＝下 宰 洙（元朝鮮大学校教授）</p> <p>1月22日(水) 改憲とTPPを必要とする日本独占資本——帝国主義は軍事力を不可欠とする</p> <p>講師＝新田 進（国際労働運動研究）</p> <p>1月25日(土) 社保庁解雇撤回闘争の部分的勝利と今後の闘い</p> <p>講師＝國枝孝幸（全厚生闘争団事務局次長）</p> <p>1月29日(水) 中南米社会主義の「いま」——ベネズエラの苦闘、キューバの改革</p> <p>講師＝富山栄子（国際交流平和フォーラム）</p> <p>2月5日(水) 朴槿恵政権1年と韓国労働運動の危機論争——『解放後の韓国労働運動 われらの歴史』^{（1999年 35分 韓国労働者ニュース制作団）} を上映</p> <p>講師＝土松克典（韓国労働運動研究）</p> <p>2月8日(土) 放射能汚染を追って——福島原発事故から3年 現状と課題</p> <p>講師＝今中哲二（京都大学原子炉実験所助教）</p> <p>2月15日(土) 韓国労働運動の進路をめぐる論争——韓国・日本・ギリシャをつなく道</p> <p>講師＝韓国から全国労働者政治協会のメンバーを招聘</p> <p>2月19日(水) 非正規雇用違憲訴訟の可能性を探る</p> <p>講師＝二瓶久勝（国鉄闘争を継承する会代表）／新田 進（国際労働運動研究）</p> <p>2月22日(土) 日本軍はシンガポールでなにをしたのか——『チョプスイ』（めこん社刊）を観て、読んで、討論する</p> <p>講師＝中原道子（〈VAWW-RAC〉共同代表）</p> <p>2月26日(水) 1950・6・25「北朝鮮による突然の南侵」説の虚構を暴く——「検証 朝鮮戦争 日本はこの戦争にどうかかわったのか」を手掛かりに</p> <p>講師＝鎌倉孝夫（埼玉大学名誉教授）</p> <p>3月1日(土) 核に向き合う文学——原爆から原発へ</p> <p>講師＝石川逸子（詩人）</p> <p>3月5日(水) 目にあまる天皇の政治利用——憲法9条を1条に！</p> <p>講師＝山口正紀（ジャーナリスト、人権と報道・連絡会世話人）</p> <p>3月8日(土) 国際婦人デー集会「女性労働者の分断と格差拡大に抗して」</p> <p>3月11日(火) 日本の短編小説を読む 加藤幸子作『夢の壁』</p> <p>講師＝立野正裕（明治大学教授）</p> <p>3月15日(土) 『ローザ・ルクセンブルク雑感』</p> <p>講師＝湯地朝雄（文芸評論家）</p> <p>3月22日(土) 「崖っぷちの安全論」で原発輸出・再稼働——事故後も「安全より利益」が買かれるしくみ</p> <p>講師＝田中三彦（^{科学ジャーナリスト、元東京電力福島原子力発電所事故調査委員会〈国会事故調〉委員}）</p> <p>3月29日(土) パレスチナ・そこにある日常——パレスチナの写真も展示</p> <p>講師＝高橋美香（フォト・ジャーナリスト／『パレスチナ・そこにある日常』著者）</p> <p>●自主ゼミ（全3回）（詳細別途）</p> <p>ギリシャ共産党第19回党大会の諸文書を読む</p> <p>講師＝山下勇男／沖江和博（社会主義理論研究）</p>	
--	--

《2013年度後期募集要項》

- 定員 本科生40名（10月21日(月)より募集）
- 全講座32回（各週1～2回程度）
- 本科生は、すべての講座を受講できます。その他、交流を深めつつ数講座を集中して学ぶ夏季合宿（前期）や、懇親会などの企画があります。

◎聴講生20名
シリーズを問わず、自由に講座を選べる12枚綴りの聴講チケットがあります。

●費用

- ◎本科生 入学金…1万円（次期以降は不要）
- 受講料…前期：3万円、後期：3万円
- 前期5月、後期11月の開講時までそれぞれ納入してください。

◎聴講生 聴講料 回数券…15,000円

- 聴講料納入と引き換えに12枚綴りの聴講チケットをお渡しします。
- 1回の受講料は本科より割高ですが、一般受講より割安になります。
- 聴講券は、発行日より1年間有効です。
- 毎年、夏に行なう夏季ゼミナーには、聴講券を2枚提出していただきます。

◎一般 受講料…1,500円（各講座1回につき）

- 本科生・聴講生以外の一般参加は、受付で現金にていただきます。

●申込方法

- 所定の申込用紙に必要事項を記入のうえ、入学金・受講料を添えて、直接事務局に持参、または現金書留にて郵送してください。郵便振替ご利用の際は、申込用紙を別途郵送または事務局にお持ちください。

●注意事項

- HOWSゼミナールについては、会計が異なります。
- 講師の急病等やむを得ない事情により、日程・テーマ・講師等が変更になる場合があります。